

九電工ファンド

# 九大V Bに出資

第1号  
2400万円

## 眼科手術の薬剤開発

九電工などが立ち上げた九州の中小企業を支援するファンド「チャレンジ九州・中小企業ががんばれファンド」の出資先第一号が決まった。九州大学発の医薬品開発ベンチャー、アキユメンバイオファーマ（福岡市、鍵本忠尚社長）に二十八日、二千四百万円を出資する。糖尿病網膜症などの眼科手術補助剤の開発費に充て、二〇〇八年末をメドに製造販売承認を目指す。

同ファンドは九電工と中小企業基盤整備機構が四月、九州域内の中小企業を支援する目的で組成した。ファンド総額は約十億円で、コア・コンピタンス九州（福岡市、森大介社長）が財務面を審査して出資先を選定する。森社長は「アキユメンは世界に通じる有望な技術を持っている」と選定した理由を話している。

アキユメンが開発を目指している薬剤「DYM

E（タイム）」を使用すると、眼底の内境界膜を染色して網膜の手術がし

やすくなる。〇八年末に米国で、〇九年末には日本で製造販売承認を目指す。開発費は二億円強で、年間売上高は日米で計四億円を見込む。アキユメンは〇九年の株式公開を目指している。